

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第 67 回全日本剣道選手権大会



第 23 回世界相撲選手権大会



第 70 回全日本弓道遠的選手権大会





決勝＝國友（左）が小手を決める

第67回全日本剣道選手権大会

初の大坂開催

第67回全日本剣道選手権大会が11月3日、大阪府大阪市の丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）で開催された。

大会には各都道府県の予選を勝ち抜いた64名の選手が集結。約5700名の観客が固唾を呑んで見守る中、精鋭たちは剣道日本一を賭けて熱戦を繰り広げた。

決勝では、2度の準優勝の実績を誇る國友錬太郎（福岡県警）と、大学生ながら強豪を降して勝ち上がった松崎賢士郎（筑波大3年）が対戦。試合は國友が小手を決め、念願の初優勝を手にした。

本大会は、1953年に東京都台東区に所在した蔵前国技館で第1回大会が行われ、1964年の第12回大会から昨年の第66回大会まで日本武道館で実施されてきた。今年は、日本武道館が2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う増改修工事のため、会場を移し、初の大坂開催となった。

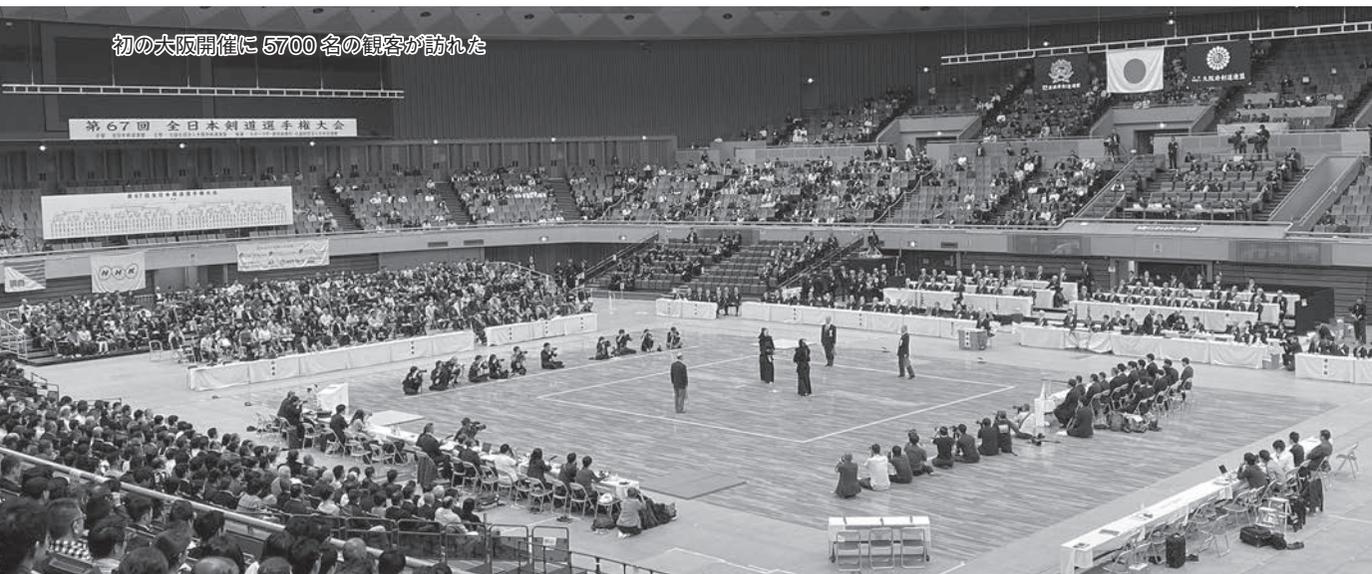
競技はトーナメント方式で行われ、試合は3本勝負。試合時間は、1～3回戦は5分、4回戦（準々決勝）以降は10分で行われた。試合時間内に勝敗が決しない場合は無制限の延長戦を行い、先に一本を取った者を勝者とした。



國友錬太郎 念願の初優勝

(福岡県警)

初の大坂開催に 5700 名の観客が訪れた





写真② 3回戦=安藤(左)が胴を決める



写真① 1回戦=前田(右)が逆胴を攻める

1回戦〜3回戦

■第1ブロック

昨年ベスト8の前田康喜(大阪府警)は、1回戦で今年の全国警察選手権で準優勝した佐藤弘隆(千葉県警)と対戦。延長戦で前田が飛び込み面を決め、試合時間20分を超える初戦を制した(写真①)。その後前田は、2回戦、3回戦と順調に勝利し、準々決勝に進出した。

昨年の世界選手権で個人優勝した安藤翔(北海道警)は3回戦で合屋龍(京都府警)と顔を合わせる。試合は、安藤が面返し胴を決め、準々決勝に駒を進めた(写真②)。

■第2ブロック

史上初の3連覇がかかった西村英久(熊本県警)と、市川巧(栃木県警)による1回戦は延長戦にもつれ込む熱戦に。延長戦開始9分過ぎ、西村が小手を放つと、市川は面で合わせ判定は市川の面に旗3本。西村は1回戦敗退となった(写真③)。

一昨年3位の畠中宏輔(警視庁)は、2回戦で西村に勝利した市川を小手で降し、3回戦で今大会最年少

(20歳)の小角朋樹(大阪府警)と対決。32歳の畠中は、小角の手上がったところに落ち着いて小手を決め、準々決勝に進んだ(写真④)。

2014年と16年に準優勝の國友鍊太郎(福岡県警)は、2回戦で2015年世界選手権個人優勝者の網代忠勝(兵庫県警)と対決。國友が終了間際に飛び込み面を決めて勝利した(写真⑤)。続く3回戦でも面を決め、ベスト8に名乗りを上げた。

■第3ブロック

出場選手で唯一、大学生の松崎賢士郎(筑波大3年)は1回戦で三雲悠佑(東レ滋賀)に面で勝利し、村上泰彦(愛媛県警)との2回戦では面を2本決める。2015年世界選手権日本代表の山田凌平(北海道警)との3回戦は、山田の足が止まった瞬間に松崎が面を打ち込み、準々決勝進出を決めた(写真⑥)。

2014年に、当時大学生ながら最年少優勝を果たした竹ノ内佑也(警視庁)は、菅野隆行(兵庫県警)との1回戦を面で勝利する(写真⑦)。続く2回戦、3回戦も勝利して8強入り。

○前年度優勝Ⅱ西村英久選手(30歳・熊本県警)



「今日は緊張せず
に臨みましたが、
逆にそれがダメだ
ったのかもしれない
し遂げなかったですね」

○今大会最年少Ⅱ小角朋樹選手(20歳・大阪府警)



「畠中選手には間
合に入らせてもら
えませんでした。
大阪開催での初出
場は縁を感じますが、やはりテレビ
で見ている日本武道館での全日本選
手権の舞台に立ってみたいです」

○今大会最年長Ⅱ網代忠勝選手(39歳・兵庫県警)



「5年前にこの大
会で國友選手と対
戦し、面返し胴で
敗れているので、
胴を警戒しすぎました。出場して
み、最年長ですが、まだまだでき
と感じました」



写真⑤ 2回戦＝國友（左）が網代に面を決める



写真④ 3回戦＝畠中（右）が小角に小手を決める



写真⑥ 3回戦＝
松崎（左）が山田に面を決める



写真③ 1回戦＝
西村（左）は市川に面を決められる



写真⑦ 1回戦＝竹ノ内（右）対菅野



写真⑧ 3回戦＝
竹下（左）が中澤に引き面で勝利する



写真⑨ 2回戦＝
足立（右）が内村に小手を決める

■第4ブロック
昨年3位の竹下洋平（大分県警）は、3回戦で中澤公貴（高知県警）に小手を取られて先制を許す。しかし竹下はすぐに面を取り返すと、試合終了間際に引き面を奪って、準々決勝に進んだ（写真⑧）。

足立柳次（埼玉県警）は2回戦で本大会3回の優勝を誇る内村良一（警視庁）と対戦する。足立は足を使って積極的に攻め、出ばな小手を決めて一本勝（写真⑨）。3回戦では昨年の世界選手権日本代表の土谷有輝（大阪府警）に延長戦で面を決めて、2回目となるベスト8入りを果たす。

○今大会最年長 内村良一選手（39歳・警視庁）
「今年も全日本選手権に出られたことは嬉しく思います。この歳になっても、特別な夢の舞台ですね。今後ますますに精進します」



○今大会最年長 内村良一選手（39歳・警視庁）

「今年も全日本選手権に出られたことは嬉しく思います。この歳になつても、特別な夢の舞台ですね。今後ますますに精進します」

準々決勝①

前田康喜
(大阪府警) × コー

安藤 翔
(北海道警)



▶準々決勝①＝
前田(右)は豪快に面を打ち切る

「1本目が勝負の分かれ道でした。取られた時はまだ時間はありました。が、後半に入ると焦りが出ました。全日本選手権で優勝したいという思いは強いのですが、この舞台で自分の力を発揮できる気持ちの強さがなく、打たれたくないという気持ちの弱さが先行していることが結果に出ていると思います」



○ベスト8 安藤翔選手(北海道警)

試合開始3分過ぎ、前田が一足一刃の間合で竹刀を裏に回して面を放つ。安藤の竹刀が前田の袖に引掛かかるが、前田はそれを物ともせず、面を思い切って打ち抜き、先制する。取り返したい安藤は大きく振りかぶっての技や逆胴などで攻めるが、前田を捉え切れない。終盤、安藤が一步踏み込みながら大きく振りかぶったところに、前田が小手を決めて勝利。地元での優勝を目指す前田が準決勝に進んだ。

準々決勝②

國友錬太郎
(福岡県警) コー ツ 畠中宏輔
(警視庁)

▶準々決勝②＝
國友(左)は初太刃で出ばな小手を決める



準々決勝第2試合は、32歳の畠中と29歳の國友による、国士舘大学の先輩・後輩対決となる。
蹲踞ぞんぎょから立ち上がると、遠間から互いにジリジリと間合を詰めていく。一足一刃の間合になった瞬間、畠中は面に飛ぶ。対する國友は畠中が面に来ることを読んでいたかのようになり、その起こりに小手を打ち込み、先制する。終盤、畠中が國友の小手の出ばなに突きを取り返して、試合時間は終了。延長戦開始直後、國友は面、畠中は小手をほぼ同時に打ち込む。旗は國友の面に3本上がり、國友が準決勝に進んだ。



○ベスト8 畠中宏輔選手(警視庁)

「最後は思わず反応してしまい、それが弱点となりました。一般的なスポーツでは加齢とともに衰えると言われていますが、剣道は武道です。幼少の頃に見ていた全日本選手権では、今の私の年齢以上の先生方が優勝されていました。最近若手が頑張っていますが、この年齢でもできるということを体現したいです」

準々決勝③

松崎賢士郎
(筑波大3年)

× × — ×

竹ノ内佑也
(警視庁)



準々決勝③＝
松崎 (左) は終了間際に面を取り返す

面技が得意な両者は、序盤から飛び込み面を中心に攻めていく。終盤、竹ノ内は松崎を場外際に追い込み、松崎が居着いたところに面を打ち込むと一本。竹ノ内が先取る。試合終了が迫る中、松崎は接近戦を嫌い、遠間から勝負を仕掛ける。松崎が裏から飛び込み面を放つが、惜しくも決まらない。その後、松崎は剣先を少し下げ、そこから思い切った面飛ぶ。竹ノ内も出ばな面を

狙うが一瞬遅れ、松崎の面が決まり、勝負はタイに。延長戦に突入しても、松崎が機会良く面を繰り出す。延長戦開始1分過ぎ、接近した状態から互いに下がり、一足一刀の間合となる。その瞬間、竹ノ内が足を止めると、松崎はその隙を見逃さず、2本目と同様、捨て切った面飛ぶ。松崎の竹刀は竹ノ内の面を捉え、松崎は逆転勝ちで準決勝に駒を進めた。

「最後は足が止まってしまい、いつも打たれる場面で小手を打たれてしまいました。前回ベスト8に入った時は無我夢中でしたが、今回は考えて出した技で勝ち上がることができました。今日は悔しさの方が大きいので、さらに上を目指したいです」



○ベスト8 足立柳次選手(埼玉県警)

竹下は序盤から引き面や小手など、多彩な技で攻めていくが、惜しくも決め切ることができない。両者は決め手を欠いて、延長戦に突入。延長開始3分半過ぎ、竹下が一つ踏み込んで間合を詰めると、足立は数歩下がって間合を切る。竹下は足立を足止めた瞬間に表から竹刀を払う。足立は思わず表を警戒して手元を上げると、竹下は竹刀を瞬時に裏に回す。竹下の竹刀はそのまま足立の小手を鋭く捉えて、勝負あり。竹下が昨年に続き、ベスト4入りを決めた。

準々決勝④

竹下洋平
(大分県警)

□ —

足立柳次
(埼玉県警)



▲準々決勝④＝
竹下(右)が足立の手元の上がりにも小手を決める



準決勝①＝國友（左）の面

準決勝①

國友 錬太郎
(福岡県警) × コー

前田 康喜
(大阪府警)

序盤から、國友が細かい足さばぎで間合を詰め、前田はそれを嫌って間合を切るといふ展開が続く。中盤、遠間から國友が徐々に間合を詰めていき、そのまま面を打ち込んで先取。開始5分過ぎ、國友は前田を場外際に追い込む。國友が遠間から鋭く一足一刀の間合に入ると、前田はたまらず面に出る。國友は待つてましたとばかりに、前田の起こりに小手を切り込み、二本勝。國友は3度目となる決勝進出を決め、初の栄冠を狙う。



○3位 前田康喜選手 (大阪府警)

「國友選手は面主体の正統派の剣道で、構えていて圧力のある選手です。今日は攻めの強さで負けていたのかなと思います。勝ち進んでくると、技術的な面で差はあまりなく、攻め方と気持ちのつくり方が勝負の分かれ目だったと思います」

準決勝②

松崎 賢士郎
(筑波大3年) × ー

竹下 洋平
(大分県警)



準決勝②＝松崎（右）が初太刀で面を決める

蹲居から立ち上がり、松崎は竹刀を表、裏と小さく動かしながら間合を詰めていく。そして竹刀が裏に回った瞬間に大きく表に回して、伸びのある面を繰り出す。竹下は表から防ぐが、間に合わず、松崎が開始8秒で先制する。竹下は取り返そうと前に出ていく。しかし初太刀で打たれた面を警戒しているのか、松崎が前に出ると竹下は間合を切り、攻めが繋がらない。そのまま時間終了となり、大学3年生の松崎が決勝で國友に挑むことになった。



○3位 竹下洋平選手 (大分県警)

「油断をしていた訳ではありませんが、相手の素早い技に対処できませんでした。完敗です。1年間取り組んできましたが、去年と同じ結果ということです。後悔と反省の残る大会となりました」



決勝＝國友（右）は松崎が小手を打とうと崩れたところに面を仕掛ける



前半は互いに構え合った状態での攻防が続いた

決 勝

國友 錬太郎
(福岡県警)

コ ー

松崎 賢士郎
(筑波大3年)

一方、松崎は初戦から思い切りの良い面^{すずが}で会場を沸かせた。今後もその清々しい戦いぶりに期待したい。

國友は3回目の決勝進出にして、初の優勝。念願の頂点に登りつめた國友に、観客から万雷の拍手が送られた。

國友の小手に旗が3本上がった。松崎は面を打とうと始動する。國友は、松崎の出ばなに小手を打ち込むと、竹刀は部位を捉える。松崎もすかさず防御に切り替えるが、すでに手遅れ。國

友は立ち上がりから足を細かく使って攻めていく。対する松崎は國友の攻めが強いのか、これまで見せていた飛び込み面がなかなか出せない。剣先での静かな攻防が続き、会場には竹刀が触れ合う音が響く。終盤、松崎がようやく面に飛び込むがやや浅く、一本にはならない。

試合は延長戦に突入。延長戦開始1分半過ぎ、國友は、松崎が小手を打とうと体勢が崩れたところに面を打ち込むが、惜しくも決まらない。さらに國友は松崎の面を返して面に応じるが、これもわずかに部位を外す。接近した状態となり、間合を切

って仕切り直した直後、松崎は面を打とうと始動する。國友は、松崎の出ばなに小手を打ち込むと、竹刀は部位を捉える。松崎もすかさず防御に切り替えるが、すでに手遅れ。國友の小手に旗が3本上がった。

「3回目の準優勝」は許されない

不転の決意で擱んだ初優勝

◎優勝Ⅱ國友錬太郎選手（福岡県警）



國友選手は決勝が終わった直後にもかわらず、大粒の汗を拭いながらインタビューに応えてくれた。



國友選手は今回で3回目の決勝進出となった。しかし過去2回は、竹ノ内佑也選手（筑波大3年・当時）、勝見洋介選手（神奈川県警）に敗れ、準優勝で涙を飲んでいる。上位常連になると、そろそろ頂点を…との激励も増えてきたそうだ。

「周りからは、優勝と準優勝は全く違うと言われていました。しかし私にとって、優勝は遠く、なかなか

見えないものでした。優勝するには毎日が勝負だと思って積み重ねるしかないと努力してきました」

そんなプレッシャーの中、挑んだ決勝戦を振り返ってもらった。

「松崎選手は出ばな技も上手いし、遠くからも打てる。攻めがとても多彩です。学生だとは考えず、挑戦者のつもりで戦いました。私は出ばな技と攻めの圧力で相手を崩してこ

うと決めていました。最後に決めた小手は、何本か良いタイミングで技を出せた後だったと思います。相手が迷ったところだったのかもしれない。あの場面で小手が出たのは嬉しいですね。自分では小手を出そうという意識はなく、あのような場面ではいつもなら出ない技です」

決勝戦では構えを崩さずに、前に攻めていく姿が印象的だった國友選手。決勝戦にはどのような心境で臨んだのか。

「3回目の準優勝」は許されないだろうと思いました。そして、とにかく相手に集中して、自分の良いところを全て出そうと臨みました」

昨年韓国で開催された3年に1度の世界選手権。その大会で、國友選手は日本代表から外れた。しかし、すでに次への戦いは始まっている。

國友選手は、2021年に行われる世界選手権の日本代表候補選手として強化講習会に招集され、決勝で戦った松崎選手もその一人である。

「強化講習会では、トップレベルの先生方や選手の皆さんと稽古ができるので非常に良い刺激となっていました。そのような環境の中で、応じ技や引き技など、技のバリエーションを増やそうと稽古を積んでいるところです。すでに代表候補の中では、上から数えた方が早い年齢になってきました。レベルの高い中でも、中心となって活躍したいです」

この日、國友選手と戦った選手たちは國友選手の強さについて、異口同音に「攻めの強さ」と語った。堂々たる構えで相手に圧をかける國友選手が、日の丸を背負って戦う姿を見てみたい。

◎準優勝Ⅱ松崎賢士郎選手（筑波大3年）



「最後は誘われて、手元を浮かされたという感じでした。もちろん得意の攻めが強くてなかなか出せませんでした。昨年は初出場で、中途半端な試合展開となった部分もありました。今年は相手に取られることを恐れずに、自分が行けると思ったところで思い切って技を出せたいと思います。ここまで来られたことは自信になりました。ただ、最後に負けたことは悔しいので、この悔しさを忘れずに来年優勝できるような、一から頑張っていきたいです」



第67回 全日本剣道選手権大会

	段位	出場回数	選出県	氏名		氏名	選出県	出場回数	段位
第1ブロック	錬六	4回	(徳島)	大石 洋史	優勝・國友錬太郎(福岡)	山田 凌平	(北海道)	2回	四段
	五段	1回	(福井)	金子 亮介		加藤 俊輔	(岡山)	1回	六段
	五段	3回	(大阪)	前田 康喜		木谷 洋亮	(愛知)	2回	六段
	五段	5回	(千葉)	佐藤 弘隆		村山 仁	(神奈川)	1回	六段
	五段	2回	(茨城)	山下 和真		村上 泰彦	(愛媛)	2回	五段
	五段	2回	(静岡)	吉富 真		上江洲貴大	(沖縄)	4回	錬六
	錬六	2回	(佐賀)	原口 功世		松崎賢士郎	(茨城)	2回	四段
	五段	1回	(青森)	逢坂 和志		三雲 悠佑	(滋賀)	4回	五段
	五段	1回	(埼玉)	益子 貴義		坂爪 優太	(新潟)	2回	五段
	五段	1回	(長崎)	田尻 航		森原 諒	(広島)	1回	五段
	五段	8回	(北海道)	安藤 翔		森角 智慈	(長野)	2回	錬六
	五段	1回	(鳥取)	真田 泰希		篠田 康平	(埼玉)	1回	五段
	五段	1回	(愛知)	北村 亮祐		竹ノ内佑也	(東京)	3回	五段
	六段	3回	(石川)	篠井 皓太		菅野 隆行	(兵庫)	1回	五段
	第2ブロック	五段	1回	(京都)		合屋 龍	武田 直大	(宮城)	3回
六段		3回	(東京)	瀨野井直樹	山口 武徳	(鹿児島)	2回	六段	
錬六		6回	(三重)	笠原 孝輔	草薨 大心	(秋田)	5回	五段	
三段		1回	(大阪)	小角 朋樹	竹下 洋平	(大分)	6回	六段	
五段		1回	(福島)	大谷 昇平	松本 孟通	(福岡)	1回	五段	
五段		1回	(島根)	吾郷 健児	笠原 周	(和歌山)	4回	五段	
五段		2回	(栃木)	市川 巧	岡光健太郎	(千葉)	1回	五段	
六段		6回	(熊本)	西村 英久	中澤 公貴	(高知)	3回	五段	
錬六		6回	(東京)	畠中 宏輔	北村 心	(山梨)	1回	錬六	
五段		3回	(福岡)	西村龍太郎	中村 駿太	(静岡)	1回	四段	
五段		2回	(千葉)	山本 大喜	久保 紀暁	(宮崎)	1回	五段	
四段		2回	(奈良)	前田 頌悟	栗本 匠	(岐阜)	1回	五段	
五段		4回	(岩手)	菅野 隆介	土谷 有輝	(大阪)	2回	五段	
錬六		2回	(香川)	松本 和明	栗田 一輝	(山形)	1回	四段	
五段		2回	(群馬)	下野 裕樹	柴田 駿介	(山口)	1回	五段	
五段	5回	(福岡)	國友錬太郎	内村 良一	(東京)	13回	教七		
錬六	1回	(神奈川)	浦川伸一朗	足立 柳次	(埼玉)	4回	五段		
錬七	7回	(兵庫)	網代 忠勝	荒木 奎介	(富山)	2回	五段		



開場前から多くの観客が詰め掛けた



公開演武(日本剣道形)
打太刀・蒔田美範士、仕太刀・笠村浩二範士

山神眞一 著 (香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・256頁・DVD付・本体2400円+税

目次

第一章 一眼〜子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章 二足〜少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章 三胆〜指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章 四力〜技の力を学ぶ
剣道のアイズブレイキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しと段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章 残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業
あとがき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

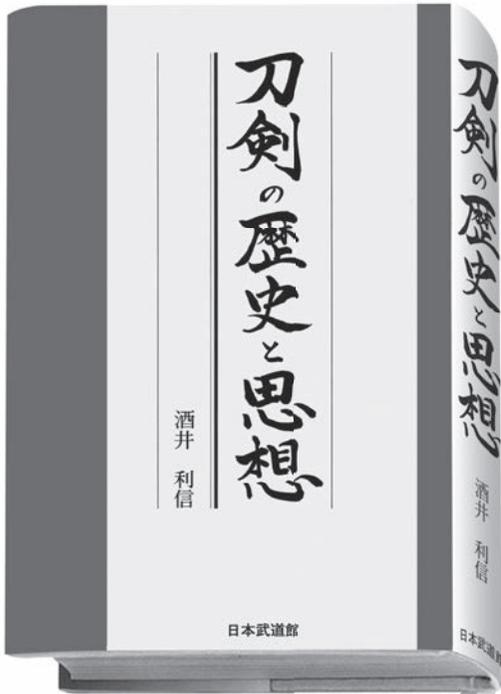
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円十税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か―



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文獻を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	「稽古照今」
序章	探求の旅をはじめめるにあたって
第二章	刀剣の歴史
第三章	刀剣思想の源流
第一節	古代中国の宝剣伝説 太阿の劍
第二節	干将莫耶の宝劍伝説
第三節	高祖の斬蛇劍
第四節	道教と劍
第五節	古代朝鮮の刀剣思想
第一章	神話的イメージの形成
第一節	神話的世界の形成と劍神の誕生
第二節	天より降る劍 節靈劍
第三節	天地を繋ぐ劍 草薙劍
第三章	信仰のなかの刀剣思想
第一節	記る劍 祀られる劍
第二節	辟邪の呪劍
第三節	うけいの呪術と劍
第四節	修験道と劍
第四章	中世における刀剣思想
第一節	三種の神器の不思議
第二節	「平家物語」にみる三種の神器
第三節	「太平記」が語る草薙劍像
第五章	近世劍術における刀剣思想
第一節	劍術伝書に語られる日本神話
第二節	新當流にみる靈劍の技術
第三節	示現流にみる心の利劍
第四節	近世劍術における刀剣思想の展開
第六章	近代以降の刀剣思想
第一節	近代以降の刀剣思想
第二節	古代と現代を繋ぐ刀剣
終章	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第70回全日本弓道遠的選手権大会

■男子の部

大石幸司 (五段)

■女子の部

石田桃子 (五段)

が嬉しい初優勝

第70回の節目となる全日本弓道遠的選手権大会（主催Ⅱ全日本弓道連盟、主管Ⅱ東京都

弓道連盟、後援Ⅱスポーツ庁・明治神宮・日本武道館ほか）が10月18日～20日、全日本弓

道連盟中央道場（明治神宮武道場至誠館第二弓道場）で開催された。全国から男子の部109名、

女子の部99名の選手が参加し、男子の部では、10射皆中で大石幸司五段が、女子の部では、

射詰競射の末、石田桃子五段がともに嬉しい初優勝に輝いた。

予選は、男女とも19日に実施され、各自6射を行い、的中数により決勝進出の上位24名を決定した。最下位の選手が複数の場合は、遠近競射により順位を決した。

決勝は、男女とも20日に実施され、各自10射を行い、的中数により順位を決定した。最上位者が複数の場合は射詰競射にて、それ以外の入賞者は遠近競射により決した。



男子の部・優勝＝大石幸司五段



女子の部・優勝＝石田桃子五段

男子の部入賞者



■男子（決勝）

決勝進出の24名には、9月に行われた選手権大会3位の森本浩之や、選手権優勝経験者の小原裕幸、中條大輔らが名を連ねた。

曇り空の中、肅々と始まった決勝であったが、6射目の終わりには、日差しが降り注ぎ、陰日向とともに勝負の明暗も徐々に分かれ始めた。小原、大石幸司、森本が全体的の中の6中。続いて、曾山良和、石山佳彦、中條、西村英信、瀬海貴之、木田隆雄が5中で後を追った。

8射目で小原、森本が失中し、7中に沈むが、大石は的中を続けて8中の独走状態となる。小原、森本以外には曾山、石山、西村、瀬海が7中で続いた。中條、木田は失中を重ねて優勝争いから遠ざかる。

大石の10射目。全員の注目が集まるなか、小気味良い音を立てて見事に10射皆中、「正射必中」を指す大石幸司が初優勝を飾った。

9中の曾山、西村、森本によって遠近競射が行われ、曾山が2位、西村が3位、森本が4位に入賞。5位には、田中博文が入った。

◎優勝Ⅱ大石幸司五段（鳥取）

「しつかり、自分の射をしていこうと実行した結果が、優勝に結びついて嬉しく思います。職場では4月に異動となり、練習がやり難い環境にはなりませんが、継続して引くため、少し遠いですが武道館に毎日通い、練習を積み重ねました。理想の射はやはり、「正射必中」です。なかなか、そこまで辿りつきませんが、目指していきたいと思います」

■女子（決勝）

決勝は24名で進められ、序盤から失中者が続出する展開となった。そのなかで石田桃子、中村裕美が的の中を重ねていった。10射目が終わり、優勝争いは9中の両名に絞られた。

注目の射詰競射で先に射つたのは石田。観衆が固唾を呑んで見守るなか、石田の矢は緩い弧を描きながら的に吸い込まれた。それに続きたい中村だったが、無情にも矢は外れて競射は終了。射詰を制して石田桃子が嬉しい初優勝を飾った。中村は2位に入賞。3位〜5位は、遠近競射により山本真理子、山田直美、長谷川絵鈴がそれぞれ入賞を果たした。

◎優勝Ⅱ石田桃子五段（東京）

「（優勝が）信じられないですね。びつくりしています。個人での全国優勝は初めてです。先々週は国体の遠的種目に出ていて、その反省を踏まえながら、練習してきました。一緒に国体を目指している東京都の弓仲間にお祝いの言葉もたくさんいただきました。普段は、仕事終わりの夕方か土日の昼間に東京武道館で週に3回くらい稽古をしています。ゆっくりでもいいので末永く弓を引けたらいいと思います」

【大会結果】

■男子

- ◎優勝Ⅱ大石幸司五段（鳥取）（初）
 - 2位Ⅱ曾山良和教士六段（石川）
 - ▽3位Ⅱ西村英信五段（岡山）
 - ▽4位Ⅱ森本浩之教士六段（愛媛）
 - ▽5位Ⅱ田中博文教士六段（宮崎）
- ### ■女子
- ◎優勝Ⅱ石田桃子五段（東京）（初）
 - 2位Ⅱ中村裕美錬士六段（石川）
 - ▽3位Ⅱ山本真理子教士七段（石川）
 - ▽4位Ⅱ山田直美教士七段（大阪）
 - ▽5位Ⅱ長谷川絵鈴五段（茨城）

女子の部入賞者



好評発売中！

漫画家・別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

B5判・並製・236頁・本体1000円＋税



月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！

なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ！ 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史

日本武道館の歴史

編集・発行 公益財団法人日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家
横瀬 知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。



武道の持つ教育力を再確認

第10回全国中学校（教科）柔道指導者研修会

第10回全国中学校（教科）柔道指導者研修会（主催：日本武道館・全日本柔道連盟、後援：スポーツ庁）は10月25日から27日までの3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で実施された。

本研修会は、中学校武道必修化の充実に向け、全国で柔道を指導する中学・高校等の指導者を対象に伝達講習のできる中核的指導者を養成するとともに、各都道府県において柔道を専門としない中学校保健体育科教員の授業力向上に資する目的で開催された。

初日は大雨により電車の運転見合せが発生するなど、参加者の足に大きな影響を及ぼしたが、講師15名、参加者56名、記録2名が参集し、熱心な研修会が行われた。

■1日目（25日）

●オリエンテーション・特別講習

大雨の影響で交通機関が大幅に乱れ、開講式の予定時刻の午後2時までに研修センターにたどり着いたのは講師11名、参加者15名と記録2名のみ。このため初日の内容を2日目に降にずらすことにした。

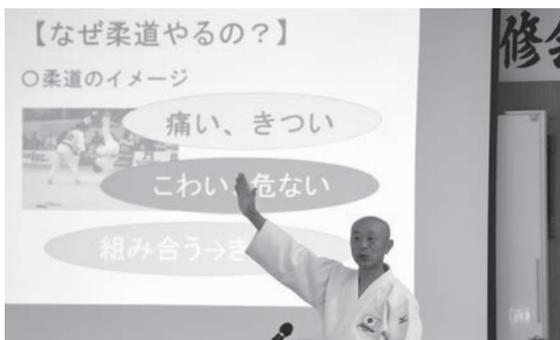
この日は参加者に特別講習を実施した。まず、講師・参加者全員が自己紹介を行い、参加者を柔道専門と専門外に分け、グループ別に武道授業の現状について情報交換を行った。その後、柔道を専門としないグループでは、鮫島康太さめしまこうた講師が安全な授業実施のための基本動作の指導法について紹介した。「前回り受身の

習得には時間がかかります。横受身までできるようになれば、対人での投技の指導に入ることが可能です。受身は日常的な動きではないため、特に女子生徒はマット運動の単元の後に実施すると、受身の練習に抵抗なく取り組めると思います」と話した。

■2日目（26日）

●開講式

午前6時30分より開講式が行われ、はじめに田中裕之たなかひろゆき全日本柔道連盟参事および普及・MINND委員会指導者養成部会委員が挨拶に立ち、「本研修会は日本武道館とともに互いに協力し合い開催している、授業づくりのための研修会です。全日本



田中裕之講師による
講義「教育に生かす武道の心」



中島昭博
日本武道館振興部振興課長



田中裕之
全日本柔道連盟参事

第10回全国中学校(教科)柔道指導者研修会 講師・事務局一覧

■講師

- 高橋 進 (大東文化大学スポーツ・健康科学部教授)
高橋健司 (東京都練馬区立貫井中学校主幹教諭)
田中裕之 (全日本柔道連盟参事)
磯村元信 (東京都立八王子拓真高等学校校長)
木村昌彦 (横浜国立大学教育学部教授)
向井幹博 (公益財団法人講道館道場指導部次長)
鮫島康太 (筑波大学附属高等学校教諭)
森 英也 (群馬県立前橋工業高等学校副校長)
與儀幸朝 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系〔保健体育〕講師)
熊野真司 (東京都練馬区立練馬中学校校長)
福井 学 (神奈川県相模原市相陽中学校副校長)
梶谷宗範 (愛媛県鬼北町立日吉中学校教頭)
遊佐英徳 (宮城県仙台市立大沢中学校教諭)
坂井武彦 (福岡県福岡市立原中学校校長)
米田輝彦 (熊本県合志市立西合志南中学校教諭)

■記録

- 榊田佳文 (筑波大学大学院生)
山本奈穂 (筑波大学学生)

■全日本柔道連盟事務局

- 前田梨衣 (普及振興課主任)
田中愛恵 (普及振興課)

■日本武道館事務局

- 中島昭博 (振興部振興課長)
末吉 潤・松林裕樹 (振興部振興課主任)

柔道連盟は競技団体です。8月に行われた世界選手権をご覧いただいたと思いますが、全柔連は競技力向上、世界チャンピオンを輩出するために力を入れています。同時に柔道の持つ教育的な価値の高さに焦点を当て、柔道を通じた人づくり、よき社会づくりのための貢献活動も行っています。そのひとつがこの研修会です。子どもたちにとって楽しい授業を展開し、柔道の技能習得を通して体力の向上と、知識の涵養^{かんやう}を目的に2日間過ごしていただきたいと思います」と述べた。

続いて、中島昭博日本武道館振興部振興課長が「お忙しい中、また大雨の影響で交通機関が乱れる状況の中、研修会にご参加いただき誠にありがとうございます。本研修会は国庫補助事業としてスポーツ庁の後援を得て、全日本柔道連盟様と共催して10回目を迎える事業です。日本を代表する講師の先生方から柔道の素晴らしさを学んでいただくとともに、指導力の向上を図っていただきたいと思います」と主催者挨拶を行いました。

●講義「教育に生かす武道の心」

午前8時30分から講習に入り、まず田中裕之講師が「教育に生かす武道の心」をテーマに武道の持つ教育性について講義した

〈要旨〉

AIと勝負しても、知識・技能では敵^{かた}いませんから、自分達で考えて正しい方向に進む力「協働と創造」力の育成が必要です。

教え込むことは大切ですが、教えられたことを使いこなせなくてはなりません。表面的な理解ではなく本質的な理解をすることで、新しいことを考え、応用や活用ができる力に繋^{つな}げることを意識してください。

成長には次のような3段階があり新学習指導要領と一致します。

①師の教えを忠実に「守」る段階
……基礎・基本となる知識、技能を教わる。

②教わった基礎・基本を「破」る段階
……身につけた教えを参考に自分で工夫して応用・活用を図る。

③師匠から「離」れ、生き方を探る段階
……自分の新しい価値観を築き、社会に貢献し、より良い人生を歩む態度を身につける。



高橋健司講師は柔道衣の部位の名称を解説



向井幹博講師による「礼法」の指導



鮫島康太講師は対人でいう「受身」の指導法を紹介



遊佐英徳講師の「固技」の指導では抑込の条件を確認した

●「礼法」の指導

続いて、向井幹博講師による「基礎知識・導入・礼法」の講習が行われた。はじめに講道館制作の柔道紹介映像を視聴した。

その後、講道館、国際柔道連盟、フランス柔道連盟が協力し、柔道の基礎を習得したい子ども達を主な対象として作成したプログラム「子どもの形」を紹介。この形は7つのグレードに分かれ、段階に応じて習得すべき動きと技が含まれていると説明した。講義に続き、大道場に移動して「立礼」「座礼」「座り方」「立ち方」の基本動作の指導を行った。

●柔道授業の留意点

引き続き、高橋健司講師が柔道授業での留意点を説明した。

〈要旨〉

初心者の指導は「意欲を持って取り組む初心者」と「仕方なく取り組む初心者」に大別できますが、人格の形成や安全の徹底管理の観点から「どんなにやりたくても絶対にしてはならないこと」「どんなに嫌でもやらなければならないこと」を理解させ、実践させます。

教員は専門用語、指導順序、理合

●「固技」の指導



新たに発刊されたガイドブック

い等を熟知していなければならず、専門外であっても安全面の技術的構造を理解することが肝要です。

●安全で楽しい授業づくり

磯村元信講師が、今年度新たにスポーツ庁の委託を受けて全日本柔道連盟から発刊された『安全で楽しい柔道授業ガイド』を使って、安全で楽しい授業づくりについて解説があった。

●「固技」の指導

国際武道大学柔道部の学生8名の協力を得て技の講習が行われた。

遊佐英徳講師による「固技」の指導では、抑込の定義として「概ね相手と向かい合う」「相手の背中と両肩または片方の肩が畳についている」「相手の足に絡まれない」の3点を説明した上で、「袈裟固」「横四方固」「上四方固」を紹介した。引き続き與儀幸朝講師による「固技



森英也講師が「小内刈」を解説



柔道を専門としない参加者同士が教わった技を組み合わせると全員の前で自由練習を披露した

武道必修化における2つの課題

高橋進講師



一つ目は日本武道館でも重点項目としている複数種類の実施です。子ども達に色々な武道種目を体験させるとともに、より低年齢層（小学校高学年）に武道を根付かせることが、今後は重要になってくると思います。

もう一つは、日本人として、また教養としての「武道」への理解や、世界に対して自国の伝統文化を発信できるような教育の在り方、根付かせ方が重要で、柔道のみならず、武道全体で研究、努力をしていかなければならないと思います。

武道指導者には、武道の持つ教育力を流布し、普及に繋げていただきたいです。今後はより一層の武道授業の充実を図るため、講師・参加者が一丸となり、しっかりと歩んでいきたいと思っています。

の自由練習」の講習が行われ、授業を想定したペア学習、グループ学習での練習方法が紹介された。

●「受身」「投技」の指導

午後からの「受身」「投技1」の講習では鯨島康太講師から「柔道の本来の楽しさを体験させるには、自分の得意技を身につけることや攻防の場面を繰り返して体験させることが不可欠です。安全に配慮し過ぎるあまり、礼法や受身ばかりに重点を置くと興味・関心も高まらず、生徒に柔道本来の楽しさを味わわせることができませぬ。安全管理と楽しさを盛り込んだ授業づくりが、教員の腕の見せどころです」と説明があった。

続いて米田輝彦講師が「投技2」で「体落」「大腰」を、森英也講師が「投技3」で「大外刈」「大内刈」「小内刈」を解説した。

ここで柔道専門の参加者と柔道専門外の参加者の2班に分け、坂井武彦講師による「技の連絡、変化」と、福井学講師による「投技の自由練習」の段階的な指導がそれぞれ行われた。固技同様に授業に活かせる指導法を紹介した。

最後に全員で記念撮影を行った。

■3日目 (27日)

午前8時30分より熊野真司講師による「新学習指導要領と柔道」の講習が行われ、学習指導要領の改訂に伴う観念別学習状況の評価の改善について解説が行われた。

さらに専門外の教員のための授業づくりについて「授業時数が足りない場合は教える技を厳選する」「楽しさを伝えられない場合は初歩的なゲーム要素を取り入れる」など専門外でも工夫次第で楽しい授業づくりが可能であると助言した。

その後、木村昌彦講師が「生徒は技や力を磨きます。指導には伝える力が重要です。指導者には『言葉』を磨いていただきたい」と総括を述べた。

引き続き、閉講式では、修了証授与と講師講評が行われ、全日程を終了した。

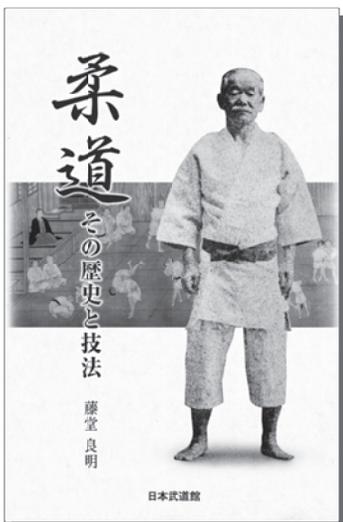


好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p>
<p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>	

<p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ!</p>	<p>TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--	---

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

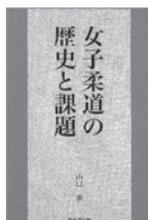


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

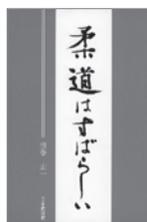


武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

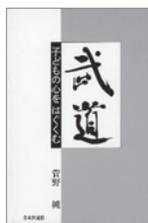


大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 一その歴史と課題

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

◇国際相撲連盟 IOC 正式承認記念・「百舌鳥・古市古墳群」世界遺産登録記念大会

第23回世界相撲選手権大会

23rd SUMO WORLD CHAMPIONSHIPS

第14回世界女子相撲選手権大会

第16回世界ジュニア相撲選手権大会・第8回世界ジュニア女子相撲選手権大会



世界相撲選手権大会・重量級表彰＝五十嵐敦が初優勝を飾る

世界相撲
選手権大会
重量級

五十嵐敦 (盛岡市役所) が初優勝

世界ジュニア選手権で団体・個人4階級で金メダル

アマチュア相撲の世界一を決める第23回世界相撲選手権大会など4大会が10月13日、大阪府堺市の大浜公園相撲場で開かれた。当日は台風19号の影響で日程変更も余儀なくされたが、世界各地から総勢245名の力自慢が集まり、気迫のこもった熱戦が展開された。日本勢は、世界相撲選手権大会の重量級で五十嵐敦が初優勝。世界ジュニア相撲選手権で団体戦と個人戦4階級の5部門で完全制覇を成し遂げるなど健闘した。

行われた大会は、ほかに第14回世界女子相撲選手権大会、第16回ジュニア相撲選手権大会、第8回世界ジュニア女子相撲選手権大会。国際相撲連盟がIOCに正式承認されたこと、堺市を含む3市にまたがる百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されたことを記念して、表記の通り記念大会と冠がついた。

世界相撲選手権大会と世界女子相撲選手権大会の両大会(参加者129カ国・地域、168名)は、今大会から個人戦に軽重量級を新設。いずれも個人戦(軽量級、中量級、軽重量級、重量級、無差別級)と団体戦の計6



開会式



個人戦・軽重量級（決勝）＝長内（右）対コンスティン



個人戦・中量級（表彰）＝2位・深野良太

部門で競った。ジュニアの2大会(参加18カ国・地域、77名)は従来通り個人戦(軽量級、中量級、重量級、無差別級)と団体戦の計5部門。

○世界相撲選手権大会

▼個人戦・軽量級

軽量代表の宮城陽(日本体育大学)は、1回戦でイランの選手に上手投げで敗れ、敗者復活戦に3位の夢をかけたが、最終戦でドチェブ・ペンチヨール・ミンチェブに押し倒しで敗れメダルを逃した。この階級は19回・20回大会で中村友哉(現・炎鵬)が優勝し、大相撲へ進んだ。

◎優勝Ⅱセミクラス・スピアトスラフ(ウクライナ)

○2位Ⅱアブドウラ・ザディ・ジョージ(ロシア)

▽3位Ⅱドチェブ・ペンチヨール・ミンチェブ(ブルガリア)、エルセファイ・アブデルラーマン(エジプト)

▼個人戦・中量級

深野良太(日本体育大学)は予選から、相手の懐に入るスピード相撲

で順調に決勝まで進んだが、決勝はバーサンドルジ・バドルのモンゴル相撲独特のしぶとさに苦戦。寄り倒しで敗れ優勝を逃した。

◎優勝Ⅱバーサンドルジ・バドル(モンゴル)

○2位Ⅱ深野良太(日本体育大学)

▽3位Ⅱリーヒオジャー・オスカーリー(フィンランド)、ルトー・ミチャル・トマスズ(ポーランド)

▼個人戦・軽重量級

長内孝樹(近畿大学)は準々決勝、準決勝を、掬い投げ、寄り切りで勝利し決勝へ。相手はアブダラー・ザディ・コンスティン。長内は、まわしを取って投げで崩し、寄り立てたものの、土俵際で廻りこまれ逆に吊り出されて敗れ、新しい階級での初代チャンピオンの座を逃した。

◎優勝Ⅱアブダラー・ザディ・コンスティン(ロシア)

○2位Ⅱ長内孝樹(近畿大学)

▽3位Ⅱダイオリー・バズハー(ウクライナ)、キャスマンベトブ・エーベック(キルギスタン)



個人戦・重量級（決勝）＝五十嵐（奥）が寄り切りで優勝を決める



団体戦・決勝＝三輪が寄り切りで勝利

▼個人戦・重量級

五十嵐敦（盛岡市役所）は予選から得意の押し相撲で順調に勝ち上がり、決勝戦ではサー・ジュニア・ルイと対戦。鋭い立ち合い後、上手を引きつけ、サー・ジュニアを一方的に寄り切つて初優勝し、日本勢として本大会唯一の金メダルに輝いた。

◎優勝Ⅱ五十嵐敦（盛岡市役所）

○2位Ⅱサー・ジュニア・ルイ（ブラジル）

▽3位Ⅱバギヤエブ・ラスラン（ロシア）、ヴァレシウク・オレクサンドラ（ウクライナ）

級で優勝しており、期待されたが、夢の兄弟制覇はならなかった。

◎優勝Ⅱナムスライジャブ・バツリー（モンゴル）

○2位Ⅱ黒川宏次朗（拓殖大学職員）

▽3位Ⅱカーストナー・ロバート（ハンガリー）、クドエフ・エドワード（ロシア）

▼団体戦

日本は先鋒・五十嵐敦、中堅・黒川宏次朗、大将・西郷智博（鳥取県庁）の布陣で挑み、決勝まで全勝で進んだ。決勝戦は黒川に替えて三輪隼斗（ソディック）を投入してロシアに挑んだ。先鋒・五十嵐は土俵際まで押し込んだが、突き落としで敗

れた。中堅・三輪は立ち合いからの速攻で一気にもろ差しで寄り切つて勝利した。大将戦では西郷が四つに組んで寄り立てたが、土俵際で体を入れ替えられて、寄り倒しで敗れ、日本の連覇はならなかった。

◎優勝Ⅱロシア

○2位Ⅱ日本

▽3位Ⅱエジプト、ウクライナ

○世界女子相撲選手権大会

▼個人戦・軽量級

奥富夕夏（日本大学）は、1回戦でダズヘンコー・アリーナーに上手投げで敗れ、敗者復活戦に回つた。

雪辱すべく挑んだ3位決定最終戦で、ドイツの選手に下手出し投げで勝つて、3位入賞を果たした。決勝は、奥富を破つたダズヘンコー・アリーナーがコーヴァル・ヴェラを下し投げで破り、優勝した。

◎優勝Ⅱダズヘンコー・アリーナー（ウクライナ）

○2位Ⅱコーヴァル・ヴェラ（ロシア）

▽3位Ⅱ奥富夕夏（日本大学）、ローザム・アレクサンドラ（ポーランド）



個人戦・重量級（3位決定戦）＝久野（上）が寄り倒して勝利



個人戦・中量級（3位決定戦）＝松本（奥）の寄り切り



個人戦・無差別級（準決勝）＝相手に勢いよく飛び込む今（右）

▼個人戦・中量級

松本渚（立命館大学）は2回戦でコーレスニック・ケーリナに敗れ、敗者復活最終戦でノルウエーの選手に押し出して勝利し、3位入賞した。

◎優勝Ⅱスクラジノースカー・マグダー・カタルジナ（ポーランド）

○2位Ⅱコーレスニック・ケーリナ

（ウクライナ）

▽3位Ⅱ松本渚（立命館大学）、ス

クミドツドーフ・ダニエラー・

エディス・エリナ（ドイツ）

▼個人戦・軽重量級

石井さくら（墨田区立本所中学校）は、ジュニアでありながらシニアにも出場。世界の強豪相手に決勝まで進みマキシメンコ・マリナーナに敗れたが、堂々の2位入賞を果たした。

◎優勝Ⅱマキシメンコ・マリナーナ（ウ

クライナ）

○2位Ⅱ石井さくら（墨田区立本所

中学校）

▽3位Ⅱオーヤシユコバー・マリー

ヤ・ゲルギノバ（ブルガリ

ア）、アレクサンドロヴァ・

アンナ（ロシア）

▼個人戦・重量級

久野愛莉（日本大学）は1回戦でポリアゴヴァ・アンナに上手投げで敗れたが、敗者復活戦で勝利し、3位入賞を果たした。

◎優勝Ⅱポリアゴヴァ・アンナ（ロ

シア）

○2位Ⅱベレズスカ・イヴァンナ（ウ

クライナ）

▽3位Ⅱ久野愛莉（日本大学）、ブ

ンエーディン・トフシンジ

ヤガル（モンゴル）

▼個人戦・無差別級

今日和（立命館大学）は順調に勝ち進み、決勝でヤールムカー・スピトラナーと対戦。得意の押しで攻めようとするも一廻り以上も大柄な相手に一方的に押され、寄り切りで敗れ、2位となった。

◎優勝Ⅱヤールムカー・スピトラナ

ー（ウクライナ）

○2位Ⅱ今日和（立命館大学）

▽3位Ⅱサン・ペイユ（台湾）、ダ

グバドジジ・ゾルジャーギ

ヤル（モンゴル）

▼団体戦

日本は、先鋒・山下紗莉奈（日本大学）、中堅・久野愛莉、大将・今日和の布陣で挑んだ。初戦の2回戦で台湾に3対0、準決勝でタイに2対1で勝って決勝戦に進み、宿敵ロシアとの対戦となったが力及ばず0対3で敗れ、日本は準優勝となった。

◎優勝Ⅱロシア

○2位Ⅱ日本

▽3位Ⅱタイ、ウクライナ



個人戦・無差別級（決勝）
＝花田（右）が一気に寄り切る

○世界ジュニア相撲選手権大会

▼個人戦・軽量級

北野泰聖（県立熊本農業高等学校）は、予選から危なげなく勝ち進み、決勝はブラソブ・イゴールとの対戦となった。両者速い動きの中、北野が上手投げで見事勝利した。

◎優勝 北野泰聖（県立熊本農業高等学校）

○2位 Ⅱブラソブ・イゴール（ロシア）

▽3位 Ⅱソーロード・ブニコブ・ミコラー（ウクライナ）、シラーギー・エリック・マーク（ハンガリー）

▼個人戦・中量級

三田大生（県立黒羽高等学校）は安定した相撲で勝ち進み、決勝はガードジョラー・アダム・メーテアスズと対決。立ち合い後、三田は突っ張りて相手の体を起こし、そのまま一気に押し出して、初優勝に輝いた。

◎優勝 三田大生（県立黒羽高等学校）

○2位 Ⅱガードジョラー・アダム・メーテアスズ（ポーランド）

▽3位 Ⅱバズ・ギルハーム（ブラジル）、ヤブハシシャイン・デーニロー（ウクライナ）

▼個人戦・重量級

川淵一意（金沢学院高等学校）

は、大柄な外国選手に体格差を感じさせない力強い相撲で決勝に進出。アールダー・ジョーオーとの対戦となった。川淵は持ち前の安定した突き押しで一気に突き出しを決め勝利し、初優勝を果たした。

◎優勝 川淵一意（金沢学院高等学校）

○2位 Ⅱアールダー・ジョーオー（ブラジル）

▽3位 Ⅱニームチック・ヒューバート・ドミニック（ポーランド）、バツェトセグ・オチャヤサイクハン（モンゴル）

▼個人戦・無差別級

決勝まで進んだ花田秀虎（県立和歌山商業高等学校）は、ミコライチック・キャクパーと対戦。もろ差しから一気に寄り切つて勝利。昨年同様、連続優勝を達成した。

◎優勝 花田秀虎（県立和歌山商業高等学校）

○2位 Ⅱミコライチック・キャクパー（ポーランド）

▽3位 Ⅱアールダー・ペードロー（ブラジル）、バトジャーギヤル・マンクフ・イデル（モンゴル）

▼団体戦

日本は、先鋒・花田秀虎、中堅・草野直哉（文徳高等学校）、大将・川淵一意の布陣で挑み、1回戦から一番も落とすことなく決勝へ。決勝では強豪モンゴルに先鋒・花田が相手を送り出して破り、中堅・草野は一気の寄り切りで勝利。大将・川淵も体力を生かして相手を寄り切り、見事、完全優勝し16連覇を達成した。

◎優勝 日本

○2位 Ⅱモンゴル

▽3位 Ⅱジョージア、ポーランド



団体戦の表彰台で16連覇を達成して笑顔を見せる日本チーム

○世界ジュニア女子相撲選手権大会

▼個人戦・軽量級

山口由奈やまぐち ゆな（楊志館高等学校）は、

準優勝したパストバロバー・ブラデー・スラバーに1回戦で寄り倒しに敗れた。敗者復活最終戦に挑み、エストニアの選手を圧倒し、寄り倒しで3位入賞を果たした。

◎優勝Ⅱニカレ・メイ・シヤン（台湾）

○2位Ⅱパストバロバー・ブラデー

スラバー（ロシア）

▽3位Ⅱ山口由奈（楊志館高等学校）、

デイスズキウイクズ・パト

リクジャー（ポーランド）

▼個人戦・中量級

長谷川理央はせがわ りお（青森県立木造高等学

校）は1回戦から他を圧倒。決勝では立ち合い後、クオ・ティン・ユンの抵抗をもとめせず、あつという間に押し出して勝利。初優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ長谷川理央（青森県立木造

高等学校）

○2位Ⅱクオ・ティン・ユン（台湾）

▽3位Ⅱロドリギス・レティッ

シャー（ブラジル）、フレ

ベンチャック・イリナー（ウクライナ）

▼個人戦・重量級

石井さくらは（墨田区立本所中学

校）1回戦でザックシュワート・マリー・ルイーイスに寄り切りで敗れ、敗者復活最終戦でロシアの選手を寄り倒し、3位入賞を果たした。

◎優勝Ⅱパケル・カイ（エストニア）

○2位Ⅱザックシュワート・マリー・

ルイーイス（ドイツ）

▽3位Ⅱ石井さくら（墨田区立本所

中学校）、モレンコ・イエリ
ゼーベッター（ウクライナ）

▼個人戦・無差別

大蔵紫音おくら しおん（大垣日本大学高等学

校）は安定した取口で2年連続で決勝戦へ。決勝は、プラマス・サンドラを力相撲で押し倒して、優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ大蔵紫音（大垣日本大学高

等学校）

○2位Ⅱプラマス・サンドラ（エス

トニア）

▽3位Ⅱクリステイク・ザザナー

（ポーランド）、コリーティ
ナー・ダリア（ウクライナ）

▼団体戦

日本は先鋒・長谷川理央、中堅・石井さくら、大将・大蔵紫音の布陣。

1回戦はオーストラリアに3対0で勝利、決勝はポーランドとの対戦となった。先鋒戦は中量級優勝の長谷川が立ち合い後、デイスズキウイクズ・パトリクジャーを左差しから

一気に寄り切り勝利。中堅戦では石井がクリステイク・ザザナーに寄り倒して敗れて1対1となった。大将戦は無差別級優勝の大蔵がサタザア

ク・ビクトリアに素早くもろ差し、何もできないビクトリアを一気に押し出し、2対1で勝利、団体5連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ日本

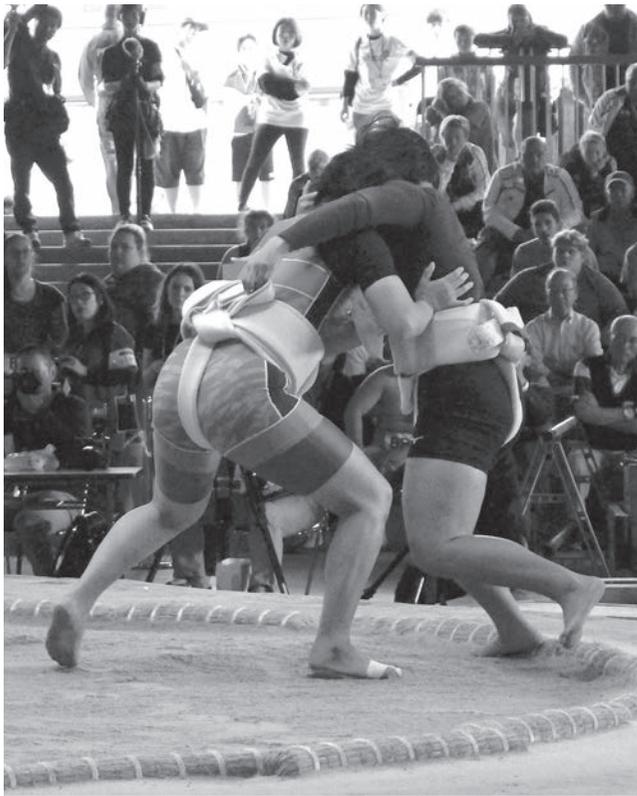
○2位Ⅱポーランド

▽3位Ⅱロシア、ウクライナ

大会報告者・原稿執筆Ⅱ浦嶋三郎

写真提供Ⅱ下村勝彦しもむらかつひこ、大森俊和おもりとしわく、

鳴原利芳なるはらとしよし



個人戦・中量級（決勝）＝長谷川（左）が押し出して勝利する

世界相撲選手権大会などを終えて



本大会の審判団（筆者は1列目中央）

公益財団法人日本相撲連盟
常務理事 浦嶋三郎

今回は、役員全員のチームワークで成功した大会であった。本大会はもともと、米国ハワイでの開催を予定していたが、現地での準備が遅れたことなどから急遽、日本での開催に変更となった。

その後、開催の準備がなんとか整ったものの、大会前日の11日からの台風19号の影響で日程の変更も余儀なくされた。ジュニアの2大会は12日に開催する計画だったが、会場が台風による大雨と強風に見舞われたため、1日遅らせることになり、4つの世界大会を1日で行う強行日程となったのである。

スケジュール、審判員等の配置を組み直し、使用する土俵も稽古用2面とメイン1面の計3会場で開催した。当日は午前中に各予選、午後からメイン会場の土俵で敗者復活戦、3位決定戦、優勝決定戦を実施した。運営の変更では多くの関係者の

尽力をいただくことができ、なんとか大会の開会に漙ぎ着けることができたのである。

また、本大会では、審判員の養成を目的としたルール研修会（11日・12日）を実施し、世界から36人が参加。13日には実践研修として大会の審判に携わった。大会では、審判長は日本人が務めたが、すべての試合で外国人が行司（主審）を担当、副審も大半が外国人によって行われた。将来的には審判長、副審、行司、大会運営にも外国人に携わって頂く予定であり、役員養成も急務であると感じた大会となった。

さらに、大会に先立ち10月11日に国際相撲連盟理事会、総会が開催された。本会では、2020年第24回世界相撲選手権大会・第15回世界女子相撲選手権大会、第17回世界ジュニア相撲選手権大会、第9回世界ジュニア女子相撲選手権大会の開催地をポランド・クロトシンで9月5日・6日に開催することが報告された。2021年ワールドゲームズ大会の開催は米国アラバマ州バーミングハム（7月17日・18日）と報告された。

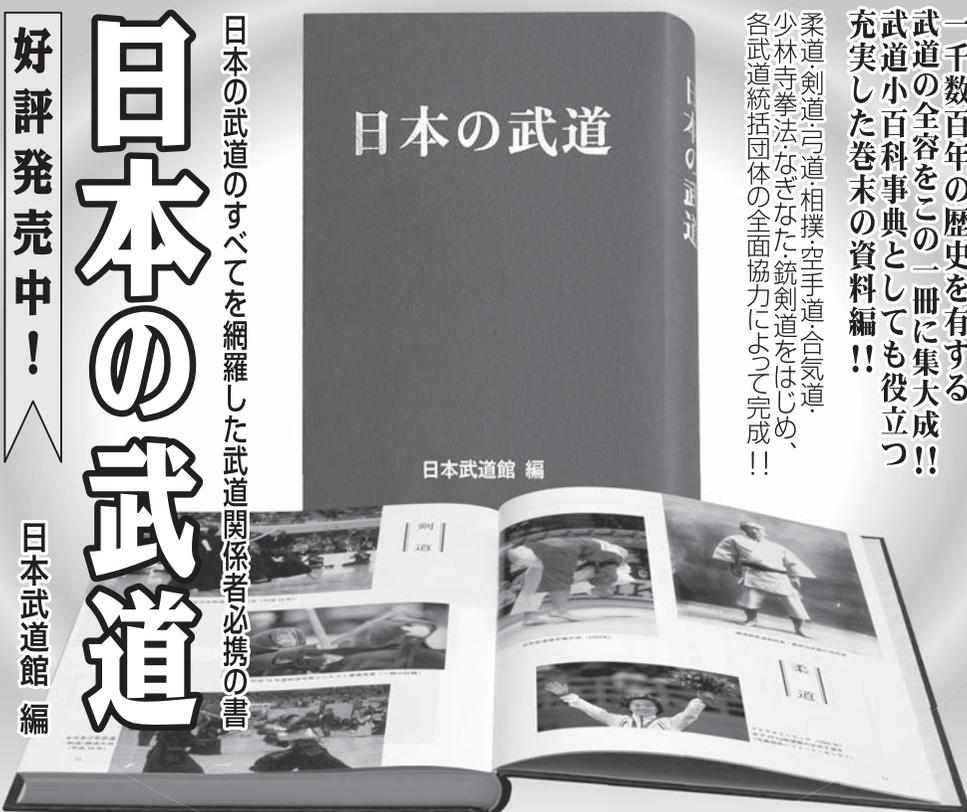
また、2021年コンバットゲームズ大会の開催がカザフスタン（5月3日～9日）と報告された。2022年第25回世界相撲選手権大会、第16回世界女子相撲選手権大会、第18回世界ジュニア相撲選手権大会、第10回世界ジュニア女子相撲選手権大会の開催国についてはロシアとイランが立候補し、採決の結果、ロシアのモスクワで開催される旨が承認された。



大会前目に行われたルール研修会の様子

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力により完成!!



日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

好評発売中!

日本の武道

日本武道館 編

《目次》

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（武道憲章「武道憲章英訳文」ことも武道憲章）
カライ 口絵（日本武道館 9 武道 10 日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え…………… 村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学 ① 国際武道大学 ② 国土館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中



神戸学院大学教授 前林清和 著
 (四六判・上製・370頁)

武道における身体と心

指導者必読！ 心身を一体的に鍛え高める武道人間学のすすめ。

本書は、「近世武芸書」に残された日本の伝統的身心論を読み解き、全人的教育を目指す武道のあり方を提言する著者渾身の一書。

【目次】

- プロローグ 武道に学ぶホリスティックな身体
- 第一章 日本人の身体観の源流—中世—
 - 第一節 武士の覚悟／第二節 禅と悟り／第三節 能楽の稽古
- 第二章 武道の心
 - 第一節 不動心／第二節 武道の悟り／第三節 駆け引き／第四節 目付／第五節 瞑想
- 第三章 武道の気
 - 第一節 気とは何か／第二節 気の歴史と武士／第三節 勝負と気／第四節 天道と心気／第五節 静と気／第六節 達人と気
- 第四章 武道の技と心身
 - 第一節 武道の型／第二節 柳生の技／第三節 武蔵の技／第四節 竹刀打込剣術／第五節 心法重視の型剣術／第六節 柔よく剛を制す／第七節 矩／第八節 鍛錬
- 第五章 人をつくる武道
 - 第一節 現代剣道と人間形成／第二節 佐川派大東流の技と修行／第三節 身を処する／第四節 死と生

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部

◎日本武道館発行『幸せについて考えよう』の著者 小野晋也氏が「人間学」について熱弁

国会木鶏クラブで講演

月刊誌「致知」（致知出版社発行）を愛読する超党派の国会議員でつくる「国会木鶏クラブ」の第27回例会が10月30日、衆議院第2議員会館で開かれ、日本武道館発行の単行本『幸せについて考えよう』——武道指導者へのメッセージ』の著者である小野晋也氏（元衆議院議員・檀樹舎舎主）が講演を行った。小野氏は、参加者を前に「国会議員が学ぶべき『人間学』」と題して熱弁を振るった。

午後4時に開会。国会木鶏クラブ会長の下村博文衆議院議員が挨拶を行った後、小野晋也氏の講演が始まった。



下村博文国会木鶏クラブ会長



小野晋也氏

〈講演要旨〉

▽「既存の環境」ではなく「自分自身を拠点とする生き方」への転換

人生は環境で左右されるものではなく、自らの責任で決まるものである。私は自身の幸福を実現するために「夢出せ！ 知恵出せ！ 元気出せ！」をモットーに活動してきた。人生は矢印で表現できる。矢印には方向と長さの2つの要素がある。人生を表す矢印にとつて、方向は「夢」に当てはまり、「幸福な人生」を目指すことである。また、長さは「知恵」と「元気」を合わせたものと考えられる。つまり「知恵」と「元気」で「夢」に向かう推進力を高めていくのである。

人生において、大切な要素は「目的が明確であること」「目的に向かう道筋が的確であること」「目的に向かつて進むエネルギーがあること」である。この3つを持ちうるか否かが「人間力」の高さであり、この3つをしつかり備えて活動できる人間がリーダーたる者である。

▽国会議員は、なぜ「人間学」を学ばねばならないのか

「学ぶ」とは人生の大地を耕し、その生き方のタネ蒔きをすることである。国会議員が「人生学」を学ぶ理由は、「一生涯を貫く『夢』を見出すため」「よりよく生きる『知恵』を得るため」「尽きることのない『元気』の源を養うため」の3つであると考えられる。

▽結びく「これからの日本に求められる人間教育」

これからの学校教育では、教師が教えたことを貯められるように、子どもの「コップ」を上向きにすることが重要である。政治家も同様である。政治家が発信したことを国民に受け止めてもらい、一人ひとりが活

力を持って生きていく国づくりを目指してもらいたい。



◎下村博文国会木鶏クラブ会長
「政治家である我々は、困難な時代だからこそ、先行きが不透明な時代からこそ、人間学を学ぶべきなのです。今日は小野先生をお呼びして、改めて政治家が学ぶべき人間学をご教授いただいで、大変勉強になりました」



参加者と小野晋也氏

最新刊
好評発売中

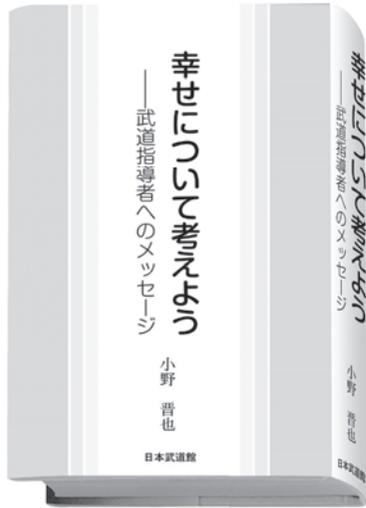
おのしんや
小野晋也

元衆議院議員・樫樹舎舎主 著

幸せについて考えよう

— 武道指導者へのメッセージ

四六判・上製・394頁・本体2400円＋税



この混迷の時代・社会において、「武道」が果たすべき大きな役割とは、「様々な困難を乗り越え切り開く道具を持って、人生を雄々しく歩んでいく」という前向きな人生姿勢を一人ひとりに、そして社会全体に取り戻すことにあるのではないでしょうか。

小野 晋也(おの・しんや) 元衆議院議員・樫樹舎舎主

昭和30年(1955年)、愛媛県新居浜市生まれ。愛光高等学校、東京大学工学部航空学科卒業。東京大学大学院工学系研究科(航空宇宙工学専攻)修士課程修了。大学院修了後、松下政経塾の第一期生として入塾。その後、27歳で愛媛県議会議員となり、平成5年、衆議院議員選挙初当選(以後、5期連続当選)。経済企画総括政務次官、文部科学副大臣、衆議院議員選挙初当選主党中央政治大学院・学院長等を歴任。平成21年8月、衆議院議員選挙不出馬。「在野の政治家」として、四国を中心としたキャラバン活動を開始。新しい時代の国家ビジョン、人類ビジョンを描き出す作業に力を尽くしている。

目次

まえがき	第一章	幸福な人生とは何か
第一講	「武道」とは、人を幸せにする教え	
第二講	「人生」とは「夢」出せ！ 知恵出せ！ 元気出せ！	
第三講	人生に「夢」や「志」を持ってないというのは、勉強不足	
第四講	人は、その本来の姿に近づこうとするときに「幸せ」を感じる	
第五講	人間を「本来の生き方・考え方」に導くための三原則	
第六講	本来の自分を取り戻すための「求己」の姿勢	
第二章	先人の「人生を貫く言葉」からの教え	
第七講	松下幸之助の「天与の尊い道」の教え	
第八講	吉田松陰の「志を力強く定義する言葉」	
第九講	伊庭貞剛の「深沈厚重の人生の教え」	
第十講	土光登美の「熱意と確信の人生」	
第十一講	安岡正篤の「思考の三原則」	
第十二講	坂村真民の「自分の花を咲かせる生き方」	
第三章	古今東西の幸福論	
第十三講	「アランの幸福論」が私たちに語りかけるもの	
第十四講	「フツセルの幸福論」が私たちに教えてくれるもの	
第十五講	「ルティの幸福論」が私たちに気づかせてくれるもの	
第十六講	神谷美恵子の「生きがいを支える欲求」	
第十七講	三谷隆正の「信じる幸福」	
第十八講	孔子の「人生の楽しみ」	
第十九講	老子の「無為自然」の思想	
第四章	幸福の人生物語と新しい文明社会	
第二十講	二宮尊徳の「心の荒無開拓論」	
第二十一講	ブータンの人たちの「幸福感」	
第二十二講	新渡戸稲造の著書「武士道」に思う	
第二十三講	「人生」とは、「白い紙」に自分で書き綴る物語	
第二十四講	人々の幸福を実現する「文明社会」	
あとがき		

編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

藤堂良明 (とうどう よしあき) 著
(筑波大学名誉教授)

学校武道の歴史を辿る

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明 (とうどう よしあき)

1949年(昭和24)、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究科修士課程修了。筑波大学教授(体育科学系)、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。

現在、筑波大学名誉教授。博士(学術)。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目次

第1部 江戸時代の学校武道	第1章 藩学の創設と文武学習	第2章 藩学における教育目標	第3章 藩学における武芸教育
第2部 明治時代の学校武道	第4章 武芸の衰退と学校教育制度の確立	第5章 学校武術採用に関する体操伝習所の答申	第6章 山岡鉄舟と嘉納治五郎
第3部 大正時代の学校武道	第7章 嘉納治五郎の学校柔道普及戦略	第8章 明治期の学校における武術の普及状況	第9章 武術の正課採用への歩み
第4部 昭和20年以前の学校武道	第10章 文部省主催武術講習会の目的と内容	第11章 学校体操教授要目の制定と内容	第12章 「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
第5部 戦後の学校武道	第13章 大日本武徳会の設立と影響	第14章 学生武道の隆盛	第15章 改正学校体操教授要目の制定と内容
第16章 精力善用国民体育と学校武道	第17章 柔・剣道が正課必修に	第18章 戦前の学生武道大会の発展	第19章 国民学校体操科の登場
第20章 第二次大戦中の体操科武道	第21章 戦後の学校武道の禁止と復活	第22章 「格技」の誕生	第23章 格技から武道へ
第24章 中学校武道必修化の実現	第25章 これからの学校武道のあり方		

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

合気道九段 多田 宏 著

合気道に活きる

四六判・上製・402頁・本体2400円＋税

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。

昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。



多田 宏 (ただひろし)

昭和4年(1929)12月14日生。東京都出身。早稲田大学第一法学部在学中の昭和25年、植芝道場入門、合気道を始める。植芝盛平先生、吉祥丸先生に師事。同年、天風会入会、中村天風先生に師事。同年、一九会道場入会、日野正一先生に師事。昭和27年早稲田大学卒業。合気道の稽古と日本武道の歴史研究を専門とする道に進む。合気道本部師範・防衛庁師範を務め、慶應義塾・学習院・早稲田の各大学合気道会設立に尽力、師範となる。昭和39年渡欧し、欧州各国での合気道普及に尽力。イタリヤ合気会を創設。

現在、合気会本部師範、早稲田大学合気道会名誉師範、東京大学合気道会名誉師範、イタリヤ合気会主任教授、国際合気道連盟委員など。また、合気道多田塾を主宰。合気道九段。

目次

第一章 生い立ち

- 一 原点
- 二 幼稚園から小学校時代
- 三 第一東京市立中学校

第二章 師との出会い

- 一 松濤 船越義珍先生
- 二 植芝盛平先生・吉祥丸先生
- 三 中村天風先生
- 四 鉄叟日野正一先生・みち系先生

第三章 生き方の方針

- 一 植芝道場 先輩の教え
- 二 命の基を訪ねて
- 三 一生の方針を定める

第四章 植芝盛平先生の教えと稽古

- 一 気の錬磨
- 二 合気道の心
- 三 心学の道、心法の道
- 四 稽古と法
- 五 稽古の目的、人の生き方
- 六 「機」について
- 七 錬る
- 八 自然な動き
- 九 場を主宰する

第五章 合気道の普及

- 一 合気道の発展
- 二 「気の流れ」の錬磨
- 三 ヨーロッパの合気道
- 四 合気道の国際的普及
- 五 気の流れと縁

第六章 呼吸法(調気の法)

終章 稽古を顧みる

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。